

なぜ、多くの人々はそのようなことを思い、言葉にするのか考えてみるべきことであると思います。

悲しみを超える道

悲しい、無残な亡くなり方をした場合には、特に強く、どうか、こんな悲しいことにあわなないようにお願い、そういうつらい世界からのがれたいと思います。助けてあげたいけれども、どうやって助けてあげたらいいのかわからない。何にもしてあげられない。そういう思いが、「天国」という言葉になったのではないのでしょうか。死んだあとのこと、作りごとだと言って、人ごととして批評できるものではありません。もし、そのようなことを言う人がいるとすれば、その人は本当に人間として、血のかよった人なのではないでしょうか。